

った。以下に学生による講義の感想をいくつか紹介したい。
「統計学という分野では実際にどういった研究がされていて、
どのように応用されているのかということを知ることができ
ました」「途中で出てきた画像や動画などはとても面白くて分
かりやすかった」「卒論で統計学の分野に進んでみたいと思い
始めました」

以上

研究力向上セミナー

マテリアル工学科 安藤新二, 横井裕之

講演の概要

研究室生活を体験した4年生および大学院生を対象として、研究を推進するマインドやスキルを身に付ける事を目的として、「研究力向上セミナー」と「研究力向上ワークショップ」を開催した。

講師として宮野公樹講師（京都大学工学研究科）を迎え、2009年3月17-18日の2日間実施した。参加学生数は27名であった。

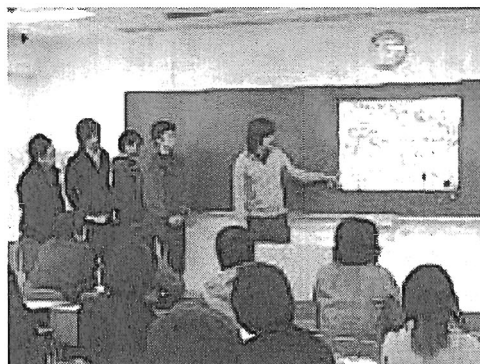
1日目のセミナーでは、宮野氏より、研究をすすめるモチベーションの持ち方や、卒業研究を行うことで身に付く力とは何かについての講演があった。セミナー後のワークショップでは、研究計画をたてるための「研究ツリー」の作成方法についての説明があった。そこで参加者を4、5名のグループにわけ、2つのテーマのうちの1つを選択し、ツリー図作成のグループワークをおこなった。今回のテーマは以下の2つであった。

「自動車の振動を抑えるにはどうしたらよいか?」「暴力的なTV番組は、子供に悪影響を与えるか?その検証方法を計画せよ」。

1時間半程のグループワークの後、各グループでプレゼンテーションを行い、その内容について全体で意見交換を行った。また最後に宮野氏より、それぞれのツリー図の問題点が指摘された。2日目には、前日指摘された問題点をもとに研究ツリーの改善を行い、再度プレゼンテーションを行った。



ツリー構造を用いるポスターの作成

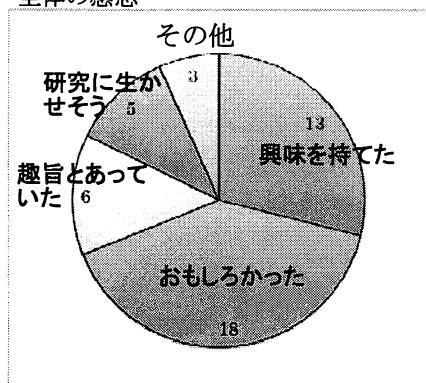


発表風景

学生の感想文

実施後の学生アンケートから、「これからの研究を進めるのち役に立った」「自分の研究を見直すよい機会であった」「行き詰まったときの解決方法がわかった」という意見があり、99%の学生が「ためになった」と感じたことがわかった。また「研究室配属時点で、最初にこのような講義を受けたかった」という意見があった。今後、学部生に卒業研究を始めさせる場合に、有用な内容であったといえる。

全体の感想



達成感

